

生徒自殺で新座二中が「学校公開」

「不満」「歓迎」新たな波紋

来校者は わずか10人 異例の試み空振り

新座市立第二中学校（阿部四生校長）の二年生男子（当時二二）が校内で指輪を食べたことを注ぎされ、自宅マンションから飛び降り自殺した問題を受け、同校が踏み切った授業やクラブ活動などの「全面公開」は、初日の一日から十二日までの約十日間で、わずか十人の保護者しか訪れていない。閉鎖的と評されがちな教育現場を公開する異例の試みを評価する声がある一方、「（公開ではなく）自殺問題をきっかけに、学校が抱える問題をもっと話し合おう」と必要では」と、疑問をよぶつる保護者もいる。保護者や地域は教育問題に果たして真正面から向き合おうとしているのか。全面公開の「不評」は、新たな問題を投げかけているようだ。

男子生徒が自殺したあゝ「一因には指導の行き過ぎ」と、同校の保護者からは「があつたのでは」などと、



新座市立第二中学校で公開された授業。見学する保護者らの姿は見られなかった
＝新座市野火止

学校指導の適正さを疑問視する声が上がった。そこで学校側は、保護者らに指導内容を直接見てもらうと、ともに、教諭らには保護者らの要望を生身で受け止める機会にしようと、一日から約二十日までの三週間にわたり、すべての授業と休憩時間、クラブ活動など終日、保護者や地域住民に公開する試み始めた。

ところが、これまでに同校を訪れた保護者らはわずか十人。うち六人は生徒らの絵画作品展を見に来た際に立ち寄っただけで、全面公開という学校側の「挑戦」は掛け声だけに終わりそうな状況だ。

阿部校長は「できるだ

もって学校が抱える問題を話し合っていたい。学校公開は自殺問題から目をそらせるだけ」と批判的だ。

もともと「今後、教育現場をオープンにしていく一つのよい契機になるのでは」と、新しい試みを歓迎する声も少なくない。

同校によると、毎年十一月に開く合唱祭には二百人以上の保護者らが見学に訪れるなど、学校行事は盛況で、保護者らが学校に全く無関心というわけでもないという。

学校側の自己弁護

評論家、室伏哲郎さんの話「私には学校公開とは、学校側が『指導に間違いがなかった』と言いたいのがたぬの自己弁護に思える。本来、情報公開とは、男子生徒を注意したとき経緯などをきちんと父母らに説明すること、ヒントがずれているのではないか」

学校側は、保護者らに指導内容を直接見てもらうと、ともに、教諭らには保護者らの要望を生身で受け止める機会にしようと、一日から約二十日までの三週間にわたり、すべての授業と休憩時間、クラブ活動など終日、保護者や地域住民に公開する試み始めた。

ところが、これまでに同校を訪れた保護者らはわずか十人。うち六人は生徒らの絵画作品展を見に来た際に立ち寄っただけで、全面公開という学校側の「挑戦」は掛け声だけに終わりそうな状況だ。

阿部校長は「できるだ

もって学校が抱える問題を話し合っていたい。学校公開は自殺問題から目をそらせるだけ」と批判的だ。

もともと「今後、教育現場をオープンにしていく一つのよい契機になるのでは」と、新しい試みを歓迎する声も少なくない。

同校によると、毎年十一月に開く合唱祭には二百人以上の保護者らが見学に訪れるなど、学校行事は盛況で、保護者らが学校に全く無関心というわけでもないという。

学校側の自己弁護

評論家、室伏哲郎さんの話「私には学校公開とは、学校側が『指導に間違いがなかった』と言いたいのがたぬの自己弁護に思える。本来、情報公開とは、男子生徒を注意したとき経緯などをきちんと父母らに説明すること、ヒントがずれているのではないか」